

第3回 徳島ガラススタジオのあり方検討会議 会議録

開催日時 令和8年1月29日（木）13時30分～

【議題 徳島ガラススタジオのあり方検討会議からの意見について】

（事務局） 会議資料説明

（委員） 説明ありがとうございました。

ただいまの説明やその他これまでの検討会議等に対して、ご意見はございませんでしょうか。

（委員） 今の説明を伺って、廃止の方向性が強いと感じましたが、もちろん廃止するかどうかということもしっかりと検討しますけれども、廃止したことによって生じるデメリットとか、あと固定的ではあるけれども講座を受講している方がいる。この方たちに対しての影響が気になりました。

（事務局） まず廃止したことにおけるデメリットですが、当然受講されている方がこれまでのように受講、利用することができないということになりますので、趣味として楽しんでいただいた部分が、これまでは市のサービスで提供していたものがなくなるので当然それはデメリットだと思います。

一部の事業について、シビックセンターで限定的ではありますが、できないかということ、今後検討していくということと、仮に廃止するとすれば、これまでかかっていた維持管理費、市の予算的な負担がなくなりますので、最終的には、受講できなくなるというデメリットと、それから、市の予算が、その分助かるというメリットがあります。バランスを考えながら、最終どういったことになるかという決断をしていくことになるかとは思いますが。

（委員） 私も廃止のデメリットは当然あると思います。何らかの形で、シビックセンターで補えるところが、不十分でも何か継続できるような形でできればいいかなと思います。

ただ事業としては、どう見ても、いわば赤字の事業であって、赤字であっても継続して、そこからガラス産業が発展していくとかそういうことがあればいいのですが、まずどうみてもそれはないということになると、市民の税金を使って継続するよりも、やっぱり基本的には廃止をすると。シビックセンターあたりでできるのであれば、限定的に事業を継続するというような方向がいいのではないかなと思います。

（事務局） 今までの意見も参考にさせていただきながら、シビックセンターで継続することができかどうかも含めまして、今後の課題、継続テーマとして検討していきます。

（委員） シビックセンターでは今も時々やっています。講習会など簡単なものです。ちょっと場所的に難しそうなことを匂わせていました。全面的に施設を移動して運営するというのは、今、実習している半分ぐらいもできないのではないかなという感じでした。

指定管理は、今後2年間はまだ残っていますが、もしこれが廃止になるとすれば、残り2年間のタイムスケジュールというのは、またこれから立案されるのでしょうか。

(事務局) 対応スケジュールにつきましては、廃止の場合どうするかというのは、今後検討していくようになります。それから、シビックセンターの方にどれだけというお話ですけれども、文化振興公社に直接お話を聞いたところによりますと、例えば機材の設置場所であるとか、あとは講座をするスペースそのもの、それから、どうしても火を使いますので、消防とかの法律上の関係もあります。ハードルがあるということは伺っておりますので、公社とどこまで現実的にできるのかということも含めまして、今後検討していくことになると思っています。

(委員) 今までに何度か検討会議を開いて皆さんの意見を集約したのがここに出ていると思います。

徳島市の行政財政もなかなか厳しいところがあって、毎年のように職員を減らしているというような状況の中で、36年間経過して非常に厳しい状況、現在もいろいろ、これまでも改善をしてきたと思うのですが、なかなか状況は良くなっていない。

そういう観点から考えますと、これからもう財政が良くなるというようなことも、なかなか考えにくい。今までガラススタジオに行っている人には、気の毒なところもありますが、そういう全体的なことを考えて、やはり今までのことを集約した、施設の廃止を視野に入れて検討を行った方が望ましいというのが私の意見です。

(事務局) いただいたご意見は、検討の中に踏まえまして進めてまいります。

(委員) ガラススタジオという、あるいはそれに関連する企業はほとんどないけれど、全くないわけではないように思います。そういうところに、移管するというか、若干の部分でその場所でやっていただいて、機材なんかもそこに差し上げてということで、継続するという方法はないものかなと思います。

(事務局) 民間譲渡というのも一つ選択肢として、一般的には、市役所がやっていた施設や事業を止める時の一つの選択肢ではあると思いますが、今回のケースに関しましては、大体年間3,000万円程度の維持管理費、おそらく指定管理料が今年から少し上がっているので3,000万円を超える額ぐらいが必要になります。それに対して、実際に講座などの収益が1,300万円ぐらい、残り1,700万円ぐらいは指定管理料で埋めている状態ですので、これに対して、なかなか手を挙げる民間企業はないと思っています。

もし仮に廃止するとすれば、市から指定管理料を出すことはありませんので、結局、民間が運営しても、3,000万円の支出があることに対して、1,300万円ぐらいの収入しかありませんので、毎年2,000万円近い赤字が積み上がることになります。民間ですので我々よりは当然、効率的な経営ができる可能性もありますが、かかる費用の半分以上を、その努力で埋めるというのはちょっと考えにくいということから、民間移管は難しいと考えています。

(委員) 廃止された場合、その施設とか、中に入っている設備とか、この辺りはどのような扱いになるのでしょうか。

(事務局) 現状、土地と建物は市の持ち物となっておりますので、基本的には、市の施設として有効活用していただける部局あるいは課等がありましたら、そちらにお譲りをして使っていただくというのがまず基本です。もし利用する部局が庁内にない場

合、一般的に申し上げますと、財産の有効活用につきまして、庁内に財産管理活用課というところがありますので、そちらが主導して、どのようにするかを検討して最終的には、あの建物を取り壊した上で売却すると、そのような流れになっていくのではないかと思います。

(委 員) かなりの設備が中にあると思いますけど、設備はどうなるのですか。

(事務局) 設備につきましても、現時点ではちょっとそれがどれぐらいの評価になるものなのか、あるいは価値があるものなのか、それともただの廃棄物であるのかというのはよくわかりませんので、建物の処分と並行しまして、それらを改めて何らかの方法で評価をした上で、例えば競売にかけるとか、何らかの方法でどこかにお譲りするとか、検討していかなければならないと思っていますけれども、現時点ではまだ確定したものではないですし、廃止もはっきりとは確定していませんので、そういったところも含めて、今後検討を進めていくのではないかと考えています。

(委 員) 今後、指定管理期間が、あと2年残っているということですが、このあと受講生募集、新規募集とかあるいは、徳島ガラススタジオの年間イベントとか、そういうのは通常通りの形になるのでしょうか。

(事務局) まだ廃止が決定したものではありませんので、残りの期間につきましては、少なくとも、指定管理期間が終わってから廃止するような形で考えていますので、今年度から3年間の指定管理期間の活動等への影響はないと思っています。

【議題 徳島ガラススタジオの今後の方向性の検討について】

(事務局) 会議資料説明

(委 員) 説明ありがとうございました。

ただいまの説明に対してご意見、ご質問はございませんでしょうか。

(委 員) その方向性は仕方ないと思いますが、民間企業で、例えばある部分を止めますと言ったときに、いわば失業者が出てきます。その対応として、失業者の就職の世話をするというような事柄が求められます。

ガラススタジオについても人もいるだろうし、要するに、方向性は仕方ないけれども、事業を縮小して、その事業に合うような方なら、どうですかという話をし、そこでいろいろ検討したけども、断られたというのであればしょうがないと思います。

ガラススタジオ自体は止めざるを得ないけれども、何とかその文化の部分を継続するための努力をしたという整理はあるような気がするんです。そうしないと反発を受けるということもあるだろうし、本来せっかく、徳島にガラス文化を普及させようと思ってやったのに、努力をしたっていう痕跡があってこそ、しょうがないなという、市民の了解も得られるのではないかと思います。

仮に廃止となった場合、スケジュールの中に、そういったところも組み込んでいながら、これまでの受講者、市民の方に、理解していただけるような、財政面の話だけではなくて、これまでのことも踏まえた上で、理解していただけるような努力をしていただきたいと考えております。

(委 員) 今までの利用状況等を見ますと、平成21年度11,000人だったのが令和5年度には6,800人と急速に利用状況が低下してきているということは、それが利用する人

が少なくなってきたということになると思います。建物をつぶしてしまうのは簡単ですが、建てるようになったらまた大変なので、何か他に利用できるとか、そういうふうな方向を考えていくというのも、一つの方法ではないかなと思います。

それから管理運営につきましても、近くにコミュニティ協議会があるので、そのコミュニティセンターの職員に、管理運営を任すというような方法も考えられるのではないかなと思います。

そのような方向で、建物を残した場合、修繕費もかかるということになるかと思うのですが、もし他の方面に使えたら、メリットがある方法が考えられたらいいのではないかなと思います。ただ、今のままでは、利益が21年度から3分の1と減少になっていますので、今のままの状況が続けるということは、少々困難かなと思います。

(事務局) 後の土地・建物をどうするかというところに関しましては、例えばコミュニティの担当課の方が、それを使いたいというお話があるのだとしたら、それはそちらの方で有効活用していただければ非常にこちらとしてもいいのかなと思っていますが、そこは各担当部局の方で、それぞれお考えのあることでして、こちらからこれに使ってくださいというのはなかなか難しいかと思うので、そういった点は、通常の市の財産の取り扱いに準じた形で手続きを進めていきます。いい活用方法があればそちらにお願いするような形だと思います。

(事務局) 勝占中部のコミュニティセンターが近くになると思いますが、地域に近いところですから、地域に親しまれている部分ももしかしたらあるかもしれませんので、これを止めるという話になるのであれば、コミュニティとして何か利用したいですかとご意見を頂戴することは当然あるかと思っています。

それも踏まえながら、そこで無いとなれば、他の課で使うことがありますとか、そういう会議がございますので、例えば建物だけ残してその中身の設備を取り除いて何か使えるのかとか、そういう話になっていくと思います。

(委員) スタジオのある場所は、やっぱり地域の方が使いやすいような気がします。だから、建物は置いて、もしかしたらリメイクしないといけないかもしれないですけど、地域の方が使えたりすると、場所的にもいいのかなって思いました。

また別の話ですが、さきほどシビックセンターで、ガラス講座の一部ができそうだということを言われていたんですけど、当然、吹きガラスみたいなのは無理だと思いますので、サンドの事だと思います。その道具とかは、分量的に置くのも結構大変なのではないでしょうか。例えばシビックセンターでは、先ほど火の問題があると、ビルですから難しいと思いますが、例えばふれあい健康館にちょっと置かせてもらうとか、その一部になりますけど、ガラスのことが残せるのではないかと考えていましたけど、そのあたりはどんな感じなのでしょう。

(事務局) 今確認しているのは、ごく一部の事業です。大きな吹きガラスみたいなものは、それは専門の設備ですので通常の建物に設置することが困難と考えています。あとは簡単なバーナーワーク、トンボ玉とか、あるいは機械を使ってサンドブラストで何か加工するようなどころぐらいまでは可能性としてあるのかなというのが公社と話し合っただけの感触です。

そういうのを最後に申し上げましたとおり、置く場所や、実際に講座をやるスペ

ースなど、そういったところも含めて具体的には、一定の方向性が決まってから公社の方にもご検討いただきながら考えていくような形になるかと思います。

(委員) できるだけ有効利用ができればいいかなと思います。

(委員) それでは二つのテーマでご意見をいただきました。

委員の皆さんの意見をお聞きして、一般的にという考え方で言えば、落としどころといいますか、施設を廃止する方向性については、こうならざるを得ないのではないかと思います。さきほど少子化という言葉を使いましたが、実際、人口が減少しているということですから、学校がなくなるのと同じような形だと思います。

今まで文化の一つを支えていたこのスタジオのこれからのあり方についての判断は、最終的には、いろいろな経験をお持ちである市役所の当該の部署にお願いするしかない。これから先、施設をどのように使っていくかという点では、今回の皆さんの意見は貴重な情報として活用されると思いますので、この検討会議でやったことは、今後も引き継がれると思っています。

それでは最後に事務局からお願いいたします。

(事務局) ありがとうございます。

それでは最後に、事務局より一言ご挨拶申し上げます。

(事務局) 会の閉会にあたりまして、ひとことご挨拶を申し上げます。委員の皆様方には昨年の8月より本日まで計3回にわたりまして、今後のガラススタジオのあり方につきましてご検討ご議論いただきまして厚くお礼申し上げます。

ガラススタジオの現状ですとか課題を踏まえまして、限られた時間の中、専門的なお立場からご意見をいただきますとともに、活発に協議、検討いただきまして本当にありがとうございました。

今後、いただきましたご意見を踏まえまして、市の内部で検討をさらに行い、本市の徳島ガラススタジオのあり方、今後の方向性について決定してまいりたいと考えております。

皆様方には今後とも徳島市の文化行政振興に、ご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。私のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

(事務局) それでは以上をもちまして第3回徳島ガラススタジオのあり方検討会議を終了いたします。委員の皆様、長期間に渡り誠にご出席ありがとうございました。